

1人1台端末「令和の学びのスタンダード」

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力として、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等があげられています。これらの資質・能力を育成するための環境整備として、GIGAスクール構想への取組も進められています。GIGAスクール構想では、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、これらを活用することで、多様な子供たちに対応した学習を目指しています。また、災害や感染症の発生等により、学校の臨時休業等が行われる場合においても、ICTを活用した家庭学習により、子供たちの学びの保障が可能になります。



各教科等の指導におけるICT活用の基本的な考え方

新学習指導要領に基づき、3つの資質・能力をバランスよく育成するため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められています。子供や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを効果的に活用することが重要です。

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

【 育成を目指す資質・能力の3つの柱 】

ICTを活用した学校におけるこれからの学び ～1人1台端末の活用例～

これまでの
教育実践



ICT



○ 学習活動の一層の充実
○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

	これからの学び	具体的な取組
一斉学習	<p>電子黒板・情報端末（タブレット）・デジタル教材を活用した「資料提示」</p> <ul style="list-style-type: none">画像、音声、動画等を拡大・縮小したり、画面へ書き込みしたりすることで、提示内容を視覚的に分かりやすく伝えることが可能になります。作業方法や実演の映像等を提示することにより、学習のポイントを焦点化し、子供たちの学習内容への理解を深めることが可能になります。	<p>【 藤岡市立鬼石北小学校 】</p> <p>タブレットに入力した個人の考えを大型スクリーンで共有しています。画面を拡大したり、書き込みしたりすることで視覚的に分かりやすく捉えるとともに、効率よく意見の交流を行っています。</p> 
個別学習	<p>「ドリルソフト」を活用した知識・技能の習得</p> <ul style="list-style-type: none">習熟の程度や誤答傾向に応じたドリルソフトを用いることにより、各自のペースで学習を進めて知識・技能を習得することが可能になります。 <p>情報端末を活用した「記録・再生」</p> <ul style="list-style-type: none">発音、朗読、書写、運動、演奏等の活動の様子を記録・再生して、自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり向上させたりすることが可能になります。	<p>【 南牧村立南牧中学校 】</p> <p>自分のレベルに合わせた学習支援ドリルを活用して、授業の復習をしたり、テスト勉強に活用したりしています。自動採点つきで、先生方の働き方改革の一助にもなっています。</p> 
協働学習	<p>電子黒板・情報端末を活用した「表現・共有」</p> <ul style="list-style-type: none">個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、多面的な見方・考え方に触れたりすることが可能になります。互いの考えを視覚的に共有することにより、グループ内の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能になります。	<p>【 高崎市立金古小学校 】</p> <p>教師から児童のタブレットに送信された資料をもとに自分の考えをもち、友達と協働して課題解決を進めていきます。電子黒板やタブレットでそれぞれの考えを比較したり、振り返りを共有したりして、深い学びにつなげていきます。</p> 

学びの深化・転換

誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びの実現

